

# 西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）オオサカショウギョウダイガク	フリガナ）オービーピーコース	フリガナ）ナカシマヨシタカ
大阪商業大学	OBP コース	中嶋嘉考

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）チームオニモツ	フリガナ）ムラタマモル	3	無
チームおにもつ	村田士		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

## 研究テーマ（発表タイトル）

旅行者専門荷物配送サービス [E-trip]

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

本サービスは、チームメンバーが北海道旅行に行った際に「荷物が邪魔」という経験を基に考案したものである。本サービスの概要として、移動範囲が広域かつ、移動手段が限定的な北海道における、転泊（てんぱく：一度の旅行で複数の宿泊施設に宿泊すること）する旅行者の荷物を、1泊目の宿泊施設から2泊目の宿泊施設へ配送するものである。これは旅行者の『荷物が邪魔』という負担を軽減するためのもので、メインターゲットは、時間的余裕のある学生を含んだ10～20代の若年層と、今後も増加の見込みが高い訪日外国人旅行者とする。そして基本利用料金は、他社より安く、かつ採算がとれる金額を求めた結果、1,000円となった。

サービスの流れは、

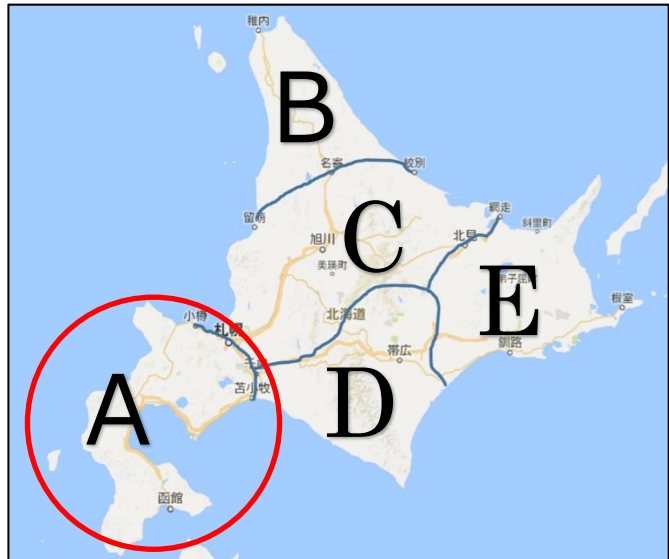
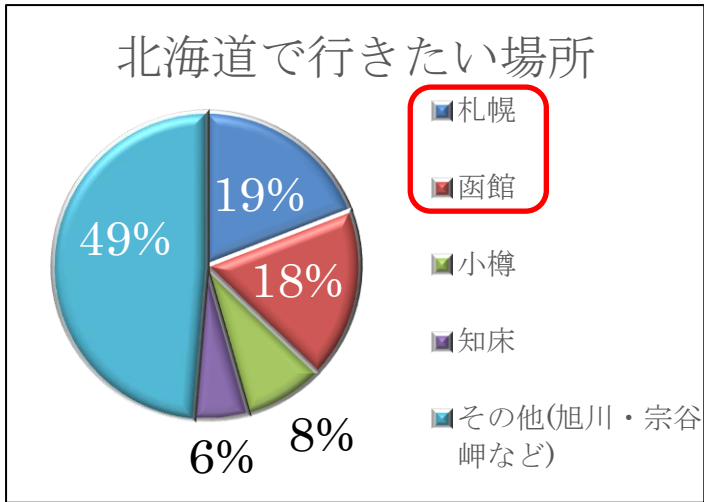
利用者：サービスの予約→宿泊→10時までに宿泊施設に荷物を預ける→チェックアウト・観光→チェックイン時に荷物受取

自社：10時より担当エリア内の複数宿泊施設で荷物回収→物流センターにて荷物の仕分け→同エリアにて荷物配送

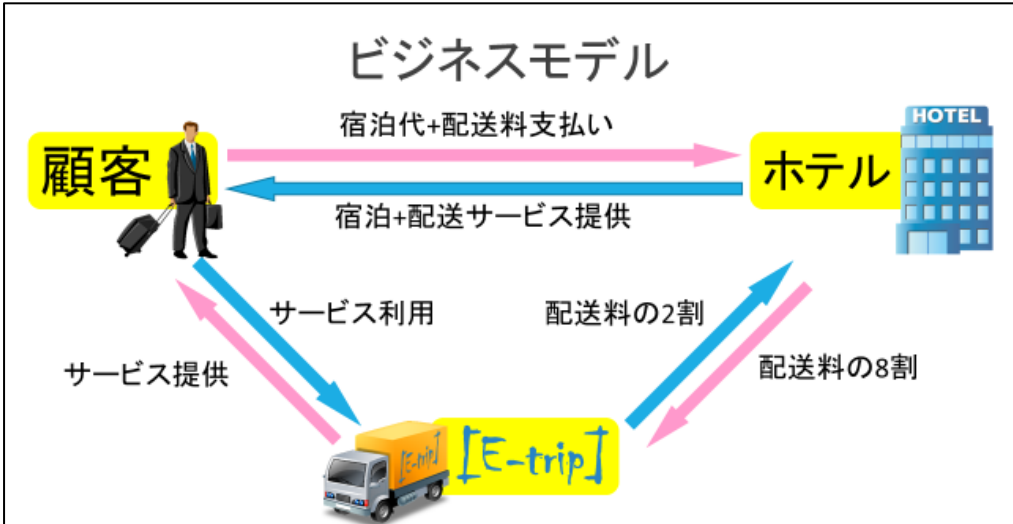
が主である。

また、北海道を5つのエリアに分け、荷物配送を効率化することで利用者の利便性を高めるとともに、本サービスの質を向上させることを狙った。そして、各エリアに物流センターを1つ設けることで更なる効率化を図る。

サービス開始から当面の間は、北海道観光の中でもとりわけ人気の札幌・函館（下図・独自アンケート）が含まれるエリア A（下図参照）のみでの配送に特化する。その後は段階的にサービス範囲を広げ、北海道全域を目指す。



収益モデルとして、サービス利用者は宿泊施設チェックイン時に宿泊費とともに荷物 1 個あたりの配送料 1,000 円を宿泊施設に支払う。宿泊施設はそのうちの 2 割を手数料として得、私たちは残りの 8 割を利益として得る。（下図）



【補足】

サービス名称([E-trip])の由来として、本サービスを利用してもらうことによって「より楽に観光を楽しんでもらいたい」という思いから銘打った。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在北海道において、他社が行う配送サービスは存在するものの、それは「空港と宿泊施設間での荷物配送」といったものであり、私たちが考える「宿泊施設から宿泊施設への荷物配送」という既存のサービスはない。

また、観光庁が 2017 年に発表した『宿泊旅行統計調査』によると、2016 年の北海道の延べ宿泊者数は 33,554,500 人で、2015 年に比べて 3%増加しており、これは東京都に次いで全国第 2 位となっている。

さらに、北海道経済部観光局が 2017 年に発表した『北海道観光入込客数の推移』では、北海道の観光入込客数（延べ人数）は 2012 年から連続で増加しており、宿泊者数も 2011 年から連続で増加している。北海道経済部観光局が平成 29 年度に発表した『北海道観光入込客数調査報告書』によると、「エリア A」にあたる札幌での宿泊者数は 1,136 万人であり、函館では 443 万人である。合計すると、1,579 万人である。これは北海道の宿泊者数上位 20 市町村の約 27%に相当する。

そして、国土交通省・観光庁が「外国人における手ぶら観光の推進」を図っている。これは 2020 年の東京オリンピックに向けて打ち出されたものであることから、物流業界における荷物配送サービスの機運は高まっていると考えられる。

### 3. 研究テーマの課題

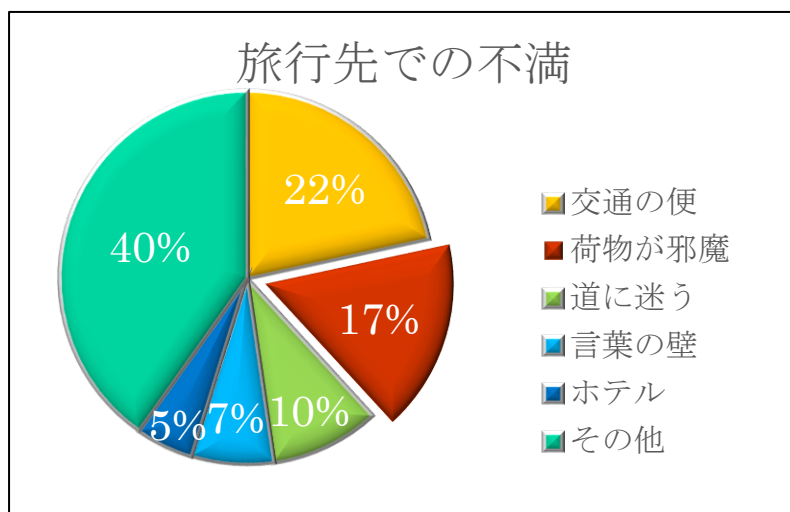
本サービスの開始を想定した場合、実現可能性と料金設定に関する課題が浮上した。

実現可能性という点では 2 つの課題が存在する。その 1 つ目として、私たちがターゲットとする若者や外国人旅行者にこのような荷物配送サービスの需要があるのかという点、そしてもう 1 つに、チェックインまでに配送が間に合わず、荷物が届いていないということが起きてはならないため、配送の質に関する点が挙げられる。

また、料金設定という面でも課題は存在する。料金設定次第で収益を得られるのかという単純な疑問が浮かぶ。これらが私たちが抱えていた課題点である。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

まず、実現可能性における「需要があるのか」については、私たちが実施したアンケートの設問『旅行先で不便に思ったことはありますか』では、「荷物が邪魔」という意見が全体の 17%を占めており（下図）、これは 2 位にランクインしている。このことから、本サービスには潜在的なニーズが存在すると考えられる。



次に「配送が間に合うのか」については、①エリア分けをする、②集積所を設置する。

①エリア分けをすることで、広大な北海道を 5 つのエリアに分けることで荷物配送における負担の軽減や、効率化を期待できる。

②各エリア内に集積所を 1 つ設置することで、更に配送効率を上げることができる。この 2 点から、利用者のチェックインまでに配送することが可能である。

次に、料金設定の面では、利用料金を前述の通り 1,000 円と設定した。そして必要経費を計算したうえで、1 エリアにおける 1 日に必要な最低限の配送件数を計算した結果、228 件となった。そして各エリアの配送人数を 4 人とすると、1 人あたり 57 件となる。

項目	金額	項目	計算式	件数
給料(1年間)	¥57,600,000	最低配送件数/年	コスト÷800(利益/件)	81,920
土地代(1年間)	¥1,296,000	最低配送件数/月	最低配送件数/年÷12	6,827
自動車(1年間)	¥6,640,000	最低配送件数/日	最低配送件数/月÷30	228
合計	¥65,536,000	最低配送件数/人	最低配送件数/日÷4	57

以上が、実現可能性・料金設定をクリアするための案である。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちが考案する[E-trip]には需要があるのかという疑問を解決するために、10 代～20 代の男女 281 人を対象にアンケート

調査を実施した。また、アンケート実施に際して新千歳空港・大阪商業大学・大阪樟蔭女子大学に御協力頂いた。

上記の「疑問を解決する」とともに挙げられる実施目的として、「若者はどれぐらい旅行に行っているのか」、「不便に思うことが何かを知りたい」、「若者は平均何泊するのか」、「転泊の概念はあるのか」、「本サービスを利用したい価格帯はいくらか」の 5 つがある。

また、エリア分けの参考のために「北海道で行きたい場所はどこですか」という質問をし、その結果からエリア分けの参考にした。

## 6. 結果や今後の取り組み

道外旅行者・宿泊者は年々増加しているが、「宿泊施設から宿泊施設への荷物配送」というサービスは現在の北海道にはない。しかし、アンケート調査の結果から「荷物が邪魔」という意見が多数見受けられたことから、本サービスに対する潜在的ニーズがあると考えられる。それに加えて、政府は手ぶら観光を推進するため、旅行者向けの荷物配送サービスを推進し、さらには補助金制度まで設けていることから、この業界の成長は自明の理ではないだろうか。

本サービスを実現するべく、エリア分けと物流センターの設置による効率化および収支計算を行った結果、私たちの考案する[E-trip]は実現可能性を帯び、収益を得られるビジネスであると言える。

## 7. 参考文献

Google Maps – Google <https://www.google.co.jp/maps/preview>

『宿泊旅行統計調査』 - 観光庁(H.29/6)

<http://www.mlit.go.jp/common/001190401.pdf>

『北海道観光の現状』 - 北海道庁 北海道経済部観光局(H.29/10)

[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H29genkyou\\_honbun\\_20171025.pdf](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H29genkyou_honbun_20171025.pdf)

『北海道観光入込客数調査報告書』 - 北海道庁 北海道経済部観光局(H.29/8)

[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H28\\_irikomi\\_honbun.pdf](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/toukei/H28_irikomi_honbun.pdf)

『北海道観光入込客数の推移』 - 北海道庁(2017.8.31)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikominosuii.htm>

『手ぶら観光の促進』 - 国土交通省

[http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/seisakutokatsu\\_freight\\_tk1\\_000069.html](http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/seisakutokatsu_freight_tk1_000069.html)

ヤマト運輸ホームページ <http://www.kuronekoyamato.co.jp/ytcc/customer/>

『平成 29 年度 手ぶら観光補助事業の募集開始～訪日外国人旅行者が手ぶら観光できる環境整備の促進～（事業概要）』 - 国土交通省(2017.10.19) <http://www.mlit.go.jp/common/001206499.pdf>

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。